

普及活動情勢報告（令和元年8月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

安全・安心な野菜をお届けします！ ～直販所「とさっ子広場」勉強会の開催～



講習会の様子

8月6日、JA土佐くろしおにおいて「とさっ子広場」勉強会を開催しました。

勉強会には生産者70人の出席があり、農業改良普及課からGAPと熱中症対策について、JAからは農薬の適正使用や昨年改定を行った農薬使用記録簿への記入、また(株)前川種苗から直販所向けのおすすめ品種について説明があり、出席者は熱心にメモを取っていました。出席者には異物混入など、たった一度の事故で消費者の信頼が揺らぐことや、リスクの回避のためにGAPの取り組みが役立つことが理解されました。

農業改良普及課は、今後もJAと連携しながら、安全・安心な農産物を消費者に届けられるよう生産者にGAPを意識づけていきます。

去年よりほ場がきれいになったで！ ～津野山地域園芸部で環境点検を実施～



環境点検の様子

7月16～17日に、JA高知県高西地区津野山地域園芸部会で、ほ場や農薬保管庫、調製場の状況を点検する環境点検を行いました。

今回も、農業振興センターとJA営農部の担当者が合同で農家を巡回し、ほ場内・周辺の管理や、農薬の保管状況等、栽培・出荷に関係する点を農家と一緒に確認しました。農家からは「まだ改善する必要がある箇所がある」「どうやったらより良くなるかアドバイスして欲しい」等感想や意見がありました。

農業改良普及課では、今後も継続的な農場の改善活動を支援していきます。

キュウリの安定生産に向けて ～キュウリ勉強会を開催～



勉強会の様子

8月9日、JA土佐くろしお営農センター会議室で環境制御技術とIPM技術、GAPについて勉強会を開催し、キュウリの生産者11名が参加しました。農業改良普及課は、「キュウリ黄化えそ病対策と天敵利用」、「病害の原因と対策、RACコードの紹介」、「環境制御装置導入のメリットと見方、活用方法について」、「GAPに取り組みましょう」の4つのテーマで説明しました。

生産者からは、「天敵を導入すると殺虫剤の散布は必要なくなるのか？」や「キルパー処理はポリフィルムに影響しないのか？」といった質問が出され、天敵利用方法や抵抗性をつけないローテーション散布の重要性、ハウス内環境測定の利点等が理解されました。

農業改良普及課は、今後もキュウリの安定生産に向けて現地検討会や勉強会を通じた情報提供等を行い、農家のレベルアップに繋がります。

これからが収穫の本番！ ～津野山土佐甘とう部会現地検討会を開催～



現地検討会の様子

8月9日に、JA高知県高西地区津野山土佐甘とう部会で、現地検討会を開催し、11戸の生産者が参加しました。

今回の現地検討会では、振興センターが整枝の方法と災害対策、JA営農指導課からモグラ被害の対策、生産者の代表から尻腐れ果対策について講習し、現地の栽培状況や整枝の手法の確認を行いました。生産者からは、「尻腐れ果対策についてもっと知りたい」「思い切って整枝したいが、どうしたらいいか」等、より実践的な質問や意見を求める声がありました。

農業改良普及課では、今後も部会の活動を支援し、土佐甘とうの収量・品質の向上に努めていきます。

女性農業者の知識向上に向けて ～はちきん農業大学 農業基礎講座～



講義の様子

8月20日、須崎農業振興センターではちきん農業大学として「植物病害の基礎講座」を開催し、女性農業者や新規就農者など5名が参加しました。座学では植物の病気と病原について、病気の診断方法、対処法について説明し、参加者からは農薬を有効に使うためのコツなどについて質問がありました。また実習では、顕微鏡を覗きながら、ナスの白絹病やシシトウの黒枯病の病原菌を確認してもらうとともに、原因を特定するために、圃場での発生状況の把握やサンプルのとり方などが重要であることも理解が得られていました。

農業改良普及課では、今後も別のテーマの講座を開催することで、女性農業者の栽培技術や知識の向上を支援していきます。

早期稲の品質向上を目指して！ ～「よさ恋美人」実証ほの収穫～



収穫の様子

7月29日、須崎市のJA出資法人土佐くろしお村村営みのりでは、昨年度より栽培している高知県が育成した新品種「よさ恋美人」実証ほの収穫を行いました。

今年は6月までの気温が低めに推移したことから、昨年度より遅い収穫となりましたが、いもち病などの発生は少なく、発生が多く心配されていたカメムシによる被害も、防除を徹底した結果、斑点米は少なく抑えられ、品質の向上を図ることができました。

農業改良普及課では、実証ほの収量・品質調査の結果をとりまとめ、よさ恋美人のさらなる品質向上と普及拡大へ繋げていきます。